

平成30年度第2回庄原市特別支援教育研修会 兼 第2回庄原市教頭研修会

平成30年12月7日（金）14:00～16:35 庄原市ふれあいセンター

第2回庄原市特別支援教育研修会は、「特別支援教育の校内支援体制の中核を担う、特別支援教育コーディネーターの資質向上を図るとともに、校内支援体制の充実及び特別支援教育を視点を据えた授業改善を推進する。」第2回教頭研修会は、「庄原市教育行政施策の方針を踏まえ、今日的教育課題の解決に向けた方策や組織的な学校運営のための教頭の果たすべき役割について理解することを通して、自校の学校運営のより一層の充実と改善に資する。」を目的に、研修会を行いました。

【講話】「本市における特別支援教育の状況について」

庄原市教育委員会 指導主事 小谷 綾子



- 本市における特別支援教育の状況について講話を行った。
- ・本市においても、支援の必要な子供の割合は増加しており、特別支援教育の一層の充実が求められる。
- ・特別支援教育の充実のためには、個別の教育支援計画の作成・活用や校内委員会の開催等、計画的・組織的な取組が必要である。

【参加者の感想等】

- ◆他校の様子等を知ることができ、参考になった。個別の指導計画等の記入、活用の工夫を聞いたので、参考にしたい。
- ◆校内委員会の定期的な開催を行っていききたい。

【講義】「主体的・対話的で深い学びとユニバーサルデザインの授業」

広島県立教育センター 特別支援教育・教育相談部長 竹野 政彦



- 障害のある児童生徒がもつ困難さに応じた指導・支援の具体や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたユニバーサルデザインの授業について講義を受けた。
- ・知的障害、自閉症・情緒障害の児童生徒がもつ特性、困難さは個々に違いがある。指導者はそのことを理解し、それぞれが抱える困難さに対して適切な指導・支援を具体的にを行う必要がある。
- ・ユニバーサルデザインの授業の要素である「焦点化」「視覚化」「共有化」の視点を取り入れることで、障害のある児童生徒を含む全ての児童生徒が主体的に学びに向かうことができる。

【参加者の感想等】

- ◆具体的な児童の例を挙げてくださったので、指導方法の参考になった。
- ◆自閉症の特性（困難さ）に応じた指導・支援として、「具体的に」、「動作を伴わせて」、「視覚的支援を行う」ということについて、もう一度考え、明日の授業から活用したい。
- ◆自分の担任する生徒を思い浮かべながら、どう授業を進めていこうかと考えることができた。
- ◆授業改善・工夫の視点として、ユニバーサルデザインの考え方を生かしていきたい。
- ◆「9歳の壁」、精神年齢の話を整理し、再度生徒の実態把握に努めたい。